

I 令和2年度事業報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、令和2年度から5年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を実施した。

令和2年度は、彩の国シェイクスピア・シリーズ第36弾『ジョン王』をはじめ、29事業が中止になるなど、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、29事業89公演が中止となった。実施事業は、新たに企画した中止事業の代替公演などを含め39事業87公演を十分な感染症対策を施し開催した。

次代を担う演劇人として注目を集める藤田貴大による新作児童劇『かがみ まどとびら』は、子どもから大人までの幅広い年齢層の観客が訪れた。また、さいたまゴールド・シアター公演は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止したが、故蜷川幸雄芸術監督が創設した演劇集団さいたまネクスト・シアターによる代替公演を実施し、同氏が築き上げた「彩の国さいたま芸術劇場」のブランド力を発信することができた。

また、渡航制限など厳しい社会情勢の中、財団がこれまで培ってきたネットワークを活かした海外舞踊公演の招聘や世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽のシリーズ公演を開催した。トップアーティストから気鋭の若手まで起用し、子どもと大人と一緒に楽しめる作品の提供や中止となった舞台公演の映像作品を配信するなど、コロナ禍においても多様なニーズに応じて鑑賞者の拡大に努めた。さらに、県内の小中学校を対象としたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE」、「MEET THE MUSIC」を引き続き実施し、小中学生が芸術文化に親しむ機会を提供したほか、若手ダンサーの育成を目指す「さいたまダンス・ラボラトリ」を開催し、次代を担う人材の育成にも努めた。

このほか、コロナ禍で失われた文化芸術体験の機会を提供した「さいたまアート・フェスタ」では、事務局として、県・文化施設を運営する団体を取りまとめて開催を成功させた。一方で、高齢者の舞台芸術参加促進プログラム「世界ゴールド祭 2020」や「近藤良平プロデュース 障害者ダンスチーム ハンドルズ」の公演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止とした。

施設利用に関しては、十分な感染症対策を施し、安全・安心に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したほか、随時財団ホームページを更新し、利用者への広報を充実させるなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。日本モダニズム建築の旗手である前川國男設計の埼玉会館では、ブランディング事業として前川國男建築セミナー第7回「前川建築と埼玉会館の心地よさ」を開催し、多くの方に埼玉会館の魅力を再発見していただくことができた。

1 事業の概要

(1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

新型コロナウイルス感染症の感染症対策を徹底し、自主企画公演等を実施した。

ア 自主企画公演等及び国内外との交流 (39 事業)

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館でも質の高い音楽作品を中心に事業を実施した。

なお、感染拡大の影響により、29 事業（演劇 7 事業、舞踊 4 事業、音楽 10 事業、その他 8 事業）の一部公演を中止した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場 (34 事業)

a 演劇部門

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、彩の国シェイクスピア・シリーズ第 36 弾「ジョン王」（演出・出演：吉田鋼太郎、主演：小栗旬）をはじめ、さいたまゴールド・シアター「現代能」（構成・演出：岡本章）、「聖地」（作・演出：松井周）など、多くの事業を中止せざるを得なかった。

次代を担う演劇人として注目を集める藤田貴大による新作児童劇『かがみ まど とびら』は公演時期を 11 月に変更し、公演回数や会場を縮小して実施した。万全の感染症対策のもと実施された公演には、延べ 500 名を超える子どもから大人までの観客が訪れた。

中止となったさいたまゴールド・シアター公演の代替として、同じく故蜷川幸雄芸術監督が創設した演劇集団さいたまネクスト・シアターによるリーディング公演「作者を探す六人の登場人物」（作：ルイジ・ピランデルロ、演出：小川絵梨子）を 12 月に実施した。小川氏は新国立劇場演劇部門の芸術監督を務めており、将来に向けた劇場間ネットワークの構築という観点からも良い糸口とすることができた。

「ジョン王」は中止となったが、コロナ禍においてもシェイクスピア作品に触れる機会を設けるという意図から、彩の国シェイクスピア講座の番外編として「リア王」および「ジュリアス・シーザー」にまつわるレクチャー（講師：松岡和子、河合祥一郎）及び上映会を実施した。レクチャーの一部はインターネットで試験的に無料ライブ配信を実施し、コロナ禍における新たな事業の在り方を模索する機会となった。

「松竹大歌舞伎」は、(公財)熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

事業名	実施時期	会場
新作児童劇「かがみ まど とびら」(日程変更)	5月→ 11月	小ホール→ 大稽古場 (NINAGAWA STUDIO)
レオの小さなトランク【中止】	5月	大ホール
松竹大歌舞伎【中止】	5月	熊谷文化創造館さくらめいと
彩の国シェイクスピア・シリーズ第36弾 「ジョン王」【中止】	6月	大ホール
マームとジプシー「cocoon」【共催】【中止】	7月	小ホール
さいたまゴールド・シアター「現代能」【中止】	8月	小ホール
さいたまネクスト・シアター リーディング公演 「作者を探す六人の登場人物」(新規)	12月	大ホール
さいたまゴールド・シアター「聖地」【中止】	2月	小ホール

b 舞踊部門

国内外で目覚ましく活躍するアーティストの新作制作や、世界的な振付家・演出家による最新作の紹介に取り組むと同時に、若手ダンサーの育成及び新作創作も手がけた。

主催公演として、5月には彩の国さいたま芸術劇場 14 回目の登場となる近藤良平が率いるユニークなダンスカンパニー「コンドルズ」による新作「Golden Slumbersーゴールデン・スランバー」を予定していたが、緊急事態宣言が発令されたため、舞台公演は中止した。映像作品「I Want To Hold Your Hand」を創作し、配信を行った。コロナ禍において視聴者を勇気づける内容との評価を受けた。

9月には1970年～80年代にかけてピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団の主要メンバーであった振付家のメリル・タンカードによる伝説のダンサー オリガ・スペシフツェワの一生を描いた作品「TWO FEET」を日本初上演予定であった。これまで当劇場での鑑賞のきっかけがあまりなかったバレエファンも足を運ぶ機会となることが期待されていたが、渡航制限が続く中、やむなく令和3年度に延期した。

12月には渡航制限が緩和され、ダンサー、振付家、研究者など様々な顔を持つフランスのアーティスト フランソワ・シェニョーを招聘し、ヴァージニア・ウルフの小説「オーランドー」から着想を得たダンス、演劇、音楽、美術など多様な芸術表現を包括したパフォーマンス作品「不確かなロマンスーもう一人のオーランドー」を上演した。世界的に活躍する振付家・ダンサーによる質の高い作品にいち早く触れる貴重な機会を提供すること

ができ、大きな反響を得た。

そのほか、育成事業としては、平成 30 年度より始動した「さいたまダンス・ラボラトリ」企画を引き続き実施した。7 月には番外編として、元バットシェバ・ヤング・アンサンブル出身の柿崎麻莉子振付による「Wild Flowers」のワーク・イン・プログレスを発表した。3 月にはネザーランド・ダンス・シアターの元ダンサーである湯浅永麻・小尻健太によるプロを目指す若手ダンサーやダンスを専門的に学ぶ学生を対象とした一定の期間集中的に行うワークショップを実施した。最終日の 2 日間には湯浅・小尻それぞれが振り付けた受講生による作品を発表する公演を行い、「若手ダンサーの育成及び創造活動」に取り組んだ。その充実したカリキュラム内容は、参加者からも他にはない試みと好評を得た。加えて本公演では、7 月の「Wild Flowers」発展版も発表。さらには新たな取り組みとして、劇作家・演出家として国内外で活躍する岡田利規がテキスト・演出を手掛け、本企画の講師を務める湯浅永麻が出演する「わたしは幾つものナラティヴのバトルフィールド」をワーク・イン・プログレスとして上演した。「ラボラトリ」ならではの実験の場として、言葉と身体の関係を探る新しい展開を見せ、こちらも高い評価を受けた。

また、平成 26 年度から実施しているプロの振付家、ダンサーによる、県内中学校の生徒を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」を引き続き実施した。コロナの影響で予定していた 4 校のうち 1 校が中止となってしまったが、実施した 3 校ではダンスを通じてのコミュニケーション能力育成を図った。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ埼玉新作ビデオダンス「I Want To Hold Your Hand」	5 月	財団公式 YouTube チャンネル
ナタリア・オシポワ/メリル・タンカード「TWO FEET」 【令和 3 年度に延期】	9 月	大ホール
フランソワ・シェニョー「不確かなロマンスー もう一人のオーランドー」	12 月	大ホール
さいたまダンス・ラボラトリ企画 Vol.3 公演「明日を探る身体」(小尻健太・湯浅 永麻による WS) 番外編「Wild Flowers」(柿崎麻莉子による WIP)	7 月・3 月	小ホール
MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！ 【4 校中 1 校中止】	通年	県内中学校

c 音楽部門

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール之音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開することで、鑑賞者の更なる拡大につながった。

世界最高級の演奏を鑑賞できる機会としては、11月に毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演を行い、併せて関連レクチャーも開催した。本格的なクラシック音楽を楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の存在をアピールすることができた。

ベテランピアニスト、イーヴォ・ポゴレリッチによるリサイタル公演(3月)、ルツェルン祝祭管弦楽団首席トランペット奏者、ラインホルト・フリードリッヒ擁する金管アンサンブル、ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット公演(3月)は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う海外からの渡航制限による影響で中止した。

14年目を迎える、選りすぐりの若手ピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、かつて埼玉会館の家族向けオーケストラ公演に子どもソリストとして登場し、2019年にチャイコフスキー国際音楽コンクールで第2位入賞を果たした藤田真央、シリーズ初のフォルテピアノ奏者として第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位入賞を果たした川口成彦、2018年浜松国際ピアノ・コンクールを制したトルコの新星ピアニストのジャン・チャクムル計3名のピアニストを迎えることとしていたが、チャクムル公演については、渡航制限による影響で中止した。藤田真央公演は、当初5月開催を予定していたが、緊急事態宣言を受けて、2月に延期し開催した。若手アーティストの公演を継続的に実施することで、次の世代の発掘支援に貢献した。

また、世界中を舞台に画期的な活動を続ける弦楽四重奏団クロノス・クアルテットのドキュメンタリー映画を上映しながらライブ演奏を行う「ライブ・ドキュメンタリー&パフォーマンス—A THOUSAND THOUGHTS」を日本で初演することを予定していたが、渡航制限による影響で公演を中止した。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用したオルガン事業(無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、「みんなのオルガン講座」、「大塚直哉レクチャー・コンサート(全2回)」)を継続して実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により光の庭プロムナード・コンサートは2回を中止としたが、事前申込制として定員を設け、感染症対策を施して計6回実施した。毎回定員に達する状況で、生演奏を気軽に楽しむ機会を提供した。

みんなのオルガン講座では、オルガンやオルガン音楽への興味を深め、ピアノ等の学習者に対して、新たな視点を提示し、より深い学びにつなげることができた。「大塚直哉レクチャー・コンサート」では、演奏とレクチャーを通してオルガンや古楽について学ぶ機会を提供するとともに、公演ごとに他分野で活躍する方をゲストに招き、バッハの音楽に多角的に光を当てることで、より深い理解につなげることができた。

また、さいたま市在住の音楽ジャーナリスト、林田直樹をナビゲーターに迎え、音楽の雑学的なお話と本格的な演奏を楽しめるシリーズ「イレブン・クラシックス」を立ち上げた。多様な年代、ライフスタイルや価値観に応じて、音楽に接するための選択肢を用意することで、誰もが音楽を身近に感じられる環境を創り出すことに努めた。

さらに、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。劇場に足を運ぶことが難しい環境にある学校などに直接音楽を届けることで、未来ある若い世代の育成を目指し、すそ野の拡大につなげることができた。

そのほか、5年目を迎える共催事業として、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを8月に開催した。

事業名	実施時期	会場
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル【中止】	7月	情報プラザ
大塚直哉レクチャー・コンサート オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの “平均律” Vol.4・Vol.5	7月・ 2月	音楽ホール
ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー 創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場 (共催)	8月	音楽ホール 他
クロノス・クアルテット 「ライブ・ドキュメンタリー&パフォーマンス —A THOUSAND THOUGHTS」【中止】	10月	大ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン ベートーヴェン プログラム (関連レクチャーも開催)	11月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.39・Vol.40 ・Vol.41) 【Vol.41は中止】	11月・2 月	音楽ホール
林田直樹ナビゲート「イレブン・クラシックス」 (Vol.1・Vol.2) 【Vol.1は中止】	1月	音楽ホール

ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット (県内の高校生を対象とした楽器クリニック) 【中止】	3月	音楽ホール
イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル 【中止】	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート【6/20公演 は中止】	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる！ 【6校中1校中止】	通年	県内小・中学校

d その他

彩の国落語大賞の授与など若手落語家の発掘・支援にも貢献してきた「彩の国さいたま寄席」については、年4回の開催予定であったが、春・夏の会（4・7月）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止し、秋・冬の会（10月・1月）については、感染症対策を徹底した上で開催した。

7月、8月には、公演中止のため予定がなくなったホール等を活用し、多くの方に劇場空間に親しんでいただくため「劇場見学ツアー」を急遽実施し、好評を博した。

また、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止したが、昨年度に引き続き、埼玉大学の講座への協力を行い、地域における芸術活動を担う人材育成に貢献することができた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席【4・7月は中止】	10～1月	小ホール
劇場見学ツアー	7～8月	大ホールほか
埼玉大学アートマネジメント講座	9月～10	埼玉大学
大学生インターンシップ	受入なし	芸術劇場
バリアフリー・セミナー【中止】	—	映像ホール
舞台技術講座【中止】	—	大ホール

(イ) 埼玉会館（5事業）

埼玉会館では、平日昼間のランチタイム・コンサートを定期的で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で6月公演は中止した。8月公演より感染症対策を施して再開し、親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供し、新たな鑑賞者層の開拓を図ることができた。

また、大ホールの特性を活かしたオーケストラ公演として毎年好評を博し

ているNHK交響楽団公演を3月に実施した。東日本大震災から10年という節目の日に、指揮者に尾高忠明、ソリストに小山実稚恵、村治佳織の2名を迎え、日本のトップ・オーケストラとともに祈りから希望へと導く内容のプログラムを披露した。特別な日に、質の高いオーケストラ演奏を鑑賞する貴重な機会を提供することができた。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート（第43回～第47回） 【第43回は中止】	8月～3月	大ホール
NHK交響楽団 尾高忠明（指揮） 小山実稚恵（ピアノ） 村治佳織（ギター）	3月	大ホール

イ 埼玉の魅力を発信する文化プログラム

コロナ禍で失われた文化芸術体験の機会を後押しするため、文化庁の支援を受け実現した「さいたまアート・フェスタ」では、事務局として、県・文化施設を運営する団体を取りまとめて開催を成功させ、コロナ禍においても地域における芸術文化振興を実現することができた。

また、高齢者の舞台芸術参加促進プログラム『世界ゴールド祭2020』は、中止となったが、関連事業としてパーキンソン病患者を対象としたダンスプログラムを、コロナ禍でも実行可能なオンラインで実施した。

一方で、県障害者福祉推進課との共催で制作・上演してきた「近藤良平プロデュース 障害者ダンスチーム ハンドルズ」については、県外公演で共演した障害者ダンスチームを招聘し、これまでの成果を結集・発展させた公演を予定していたが、中止とした。

ウ 企画展示・広報等

（ア）企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

a. 細野晋司 舞台写真展

細野氏が彩の国さいたま芸術劇場で撮影した公演の舞台写真を展示した。故蜷川幸雄監督演出作品と藤田貴大演出作品、稽古中の両氏のスナップを交え、光と影を切り取り、生の舞台から放たれるエネルギーを凝縮させた唯一無二の細野作品は見るものを惹きつけた。

（イ）財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行し

た。

公演の見どころを、より分かりやすく伝えるとともに、財団の各種案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容となるよう、編集を行った。

- a. 発行回数、部数 年6回 各12,000部発行
- b. 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、顧客の定着化とチケットの販売促進のため、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行った。

メンバーズ会員数 4,549人（令和3年3月末現在）

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 118社（者）（令和3年3月末現在）

エ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

	資料総数	左記にかかる分野ごとの内訳				
		演劇	舞踊	音楽	映画	その他
書籍	11,402点	2,262点	619点	2,802点	713点	5,006点
CD	11,083点	6点	77点	10,588点	0点	412点
映像	3,048点	432点	494点	1,726点	173点	223点

(2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、多様なニーズに対応するとともに、施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月から5月にかけて両館を休館したほか、開館時間短縮などの措置を取るとともに、マスク着用、消毒の徹底や換気などの対策を行い、感染拡大の防止に努めた。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改

善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行ったほか、ホール催物のチラシを掲載するなど利用者サービスの向上を図った。

一方、光熱水費削減のため、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 70,309人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	767日	334日	43.5%
稽古場・練習室	3,000日	2,047日	68.2%
計	3,767日	2,381日	63.2%

イ 埼玉会館

埼玉会館の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの向上に努めた。また、利用促進を図るため大型催事の誘致を進めた。

施設の安全管理の徹底とより充実した利用者サービスを提供するため、財団職員及び施設管理・レストラン等のスタッフによる全体会議を毎月実施し、管理運営上の課題や利用者の要望などを共有し連携しながら改善に取り組んだ。

また、施設の利用促進を図るため、ホール抽選会の落選者にキャンセル情報を随時提供した。このほか、利用者の負担軽減のため、展示室、会議室の抽選に先立って、利用希望を受け付ける期間を設け、利用希望が重複した場合は事前に調整を行い、利用者が受付開始日に抽選のための来館をせずすむよう図った。そのほか、会議室においては、Wi-Fiサービスの提供により、利用者の利便性向上を図った。

さらに、フェイスブックとインスタグラムによるSNSを活用した情報発信による利用促進を図った。

総来場者数 167,286人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	513日	251日	48.9%
展示室	861日	188日	21.8%
会議室	5,270日	3,346日	63.5%
計	6,644日	3,785日	57.0%

(3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するために、次の付帯事業を実施した。

ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

イ 駐車場及びレストランの運営

施設利用者の便宜を図るため、有料駐車場を管理運営した。

レストラン運営については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、休業や営業時間の短縮、各種対策の実施などを余儀なくされたが、施設利用者の要望にも配慮し、新型コロナウイルス感染症の感染症対策を徹底し、可能な範囲での営業を実施した。

ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について、一般の施設利用との調整を図りながら、積極的に受け入れた。

エ 埼玉会館のブランディング事業

建物として高い評価を受けている「埼玉会館」の歴史と建築を発信するため、ブランディング事業として建築セミナー「前川建築と埼玉会館の心地よさ」を11月に大ホールで開催した。

「世界自閉症啓発デー」におけるブルー・ライトアップ(4月)、「児童虐待防止推進月間」、「女性に対する暴力をなくす運動」のオレンジ&パープル・ライトアップ(11月)に協力するなど、前川建築や埼玉会館への関心を高めるための取組も実施した。

オ 賑わい創出と活性化のための共催・連携事業

彩の国さいたま芸術劇場では、地元のさいたま市中央区美術家協会の美術展会場として、1月にギャラリー及び情報プラザを貸与するなど開催に協力した。これまで劇場に足を運ぶ機会がなかった客層の来場があり、美術作品への触れ合いを通じて劇場空間に親しんでいただくことで、地域の人々に劇場に対する理解と親しみを深めてもらう機会となった。

埼玉会館では、地域社会との連携により賑わい創出と活性化を図るため、商店会と合同で「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行った。

2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を6回（4月、5月、6月、7月、3月〔2回〕）、評議員会を4回（5月、8月、3月〔2回〕）開催した。

3 役職員に関する事項

(1) 役員数（令和3年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1 人	1 人	
専務理事	1 人	—	1 人	県派遣 1 人
理 事	2 人	4 人	6 人	県派遣 1 人
監 事	—	2 人	2 人	
計	3 人	7 人	10 人	県派遣 2 人

(2) 職員数（令和3年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
部長・館長	2 人	—	2 人	
参 事	2 人	—	2 人	
課長・副課長・ 副参事・副館長	9 人	—	9 人	県派遣 2 人
主 査	11 人	—	11 人	県派遣 3 人
主 任	19 人	—	19 人	
主 事	3 人	—	3 人	
技 師	3 人	—	3 人	県派遣 2 人
プロデューサー	—	1 人	1 人	
参 与	—	1 人	1 人	
その他非常勤職員	—	1 人	1 人	
計	49 人	3 人	52 人	県派遣 7 人